

# お江（江姫） 麻布ゆかりの江戸将軍家の女性

## お江と麻布地区

港区を代表する名刹・増上寺は江戸時代に徳川家の菩提寺として発展しました。家康の三男で後に第二代将軍となる秀忠に嫁いだ「お江」も、夫君と共に増上寺の徳川家墓所に眠っています。

お江が55年の生涯に幕を下ろしたのは寛永3年(1626年)9月15日。亡骸は増上寺から麻布野に設けられた茶毘所に移され、火葬されました。

麻布地区には、葬列が通ったと言われる我善坊谷、葬儀に尽力した寺院など、お江ゆかりの地とされる場所や史跡が点在しています。

## 六本木にひっそりと息づく、お江ゆかりの寺院

寛永6年(1629年)、お江の葬儀と三回忌に尽力した教善寺・深廣寺・光専寺・正信寺に寺地が与えられた(正信寺は平成10年に他区へ移転)。

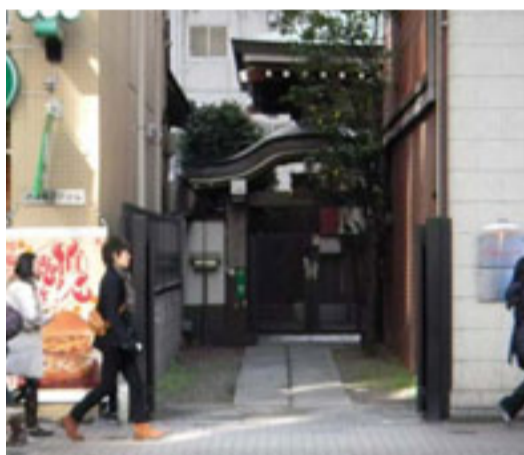


## 俯瞰でとらえた我善坊谷一帯

地形図(下図参照)で確かめると、一帯が東西に伸びたU字型の窪地になっていることがわかる。



教善寺



深廣寺(非公開)



光専寺

※上記の寺院については、深廣寺以外も原則非公開となっております。



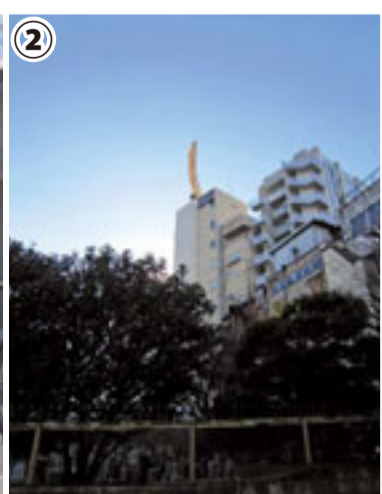
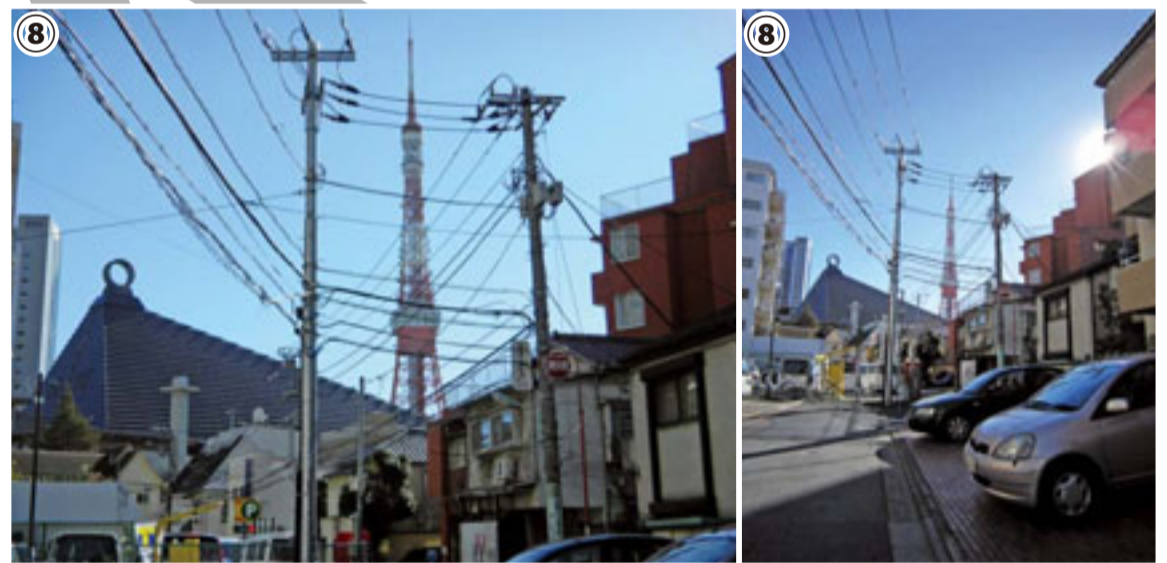
## 窪地に設けられた六本木墓苑

戦後の道路拡張に伴い、教善寺・深廣寺・光専寺・正信寺・崇厳寺(いずれも浄土宗)の墓地を崇厳寺の跡地に集約、共同墓地とした。



緑(薄い色)の部分が高台となっている。

- ①六本木3丁目：裏通りを東に向かって進み、急な階段を下る。
  - ②間魔坂から空を見上げると・・・おや、ビルの屋上に角？
  - ③六本木墓苑のフェンスに沿ってぐるりとまわったところ。道が二手に分かれている。
  - ④謎めいた小道。私道だが、「昼間は通りぬけできません」との看板あり。
  - ⑤六本木1丁目(アーク八木ヒルズ内)：「日本国憲法草案審議の地」の碑。
  - ⑥麻布台1丁目：横川省三記念公園。
  - ⑦昔ながらの木造家屋が軒を連ねる我善坊谷の一角。
  - ⑧我善坊谷の住宅街を貫く道を落合坂へと向かう。
- ※平成23年1月16日(日)まち歩き・撮影による。



# 「麻布七不思議」－江戸と今(1)



平成 23年(2011年)：麻布地区総合支所の地下1階にある、江戸時代の「麻布七不思議」を題材にした壁面のレリーフ。

「柳の井戸」「狸穴の古洞」「広尾の送り囃子」「善福寺の逆さ銀杏」「墓池」「長坂の脚気石」「一本松」を七つの不思議としてあげている。

◆このほか、かつて「麻布七不思議」に数えられた主なもの  
東町の鷹石、六本木、狸穴の婚礼、大黒坂の猫股、我善坊の大鼠、古川の狸蕎麦、谷町の遊女屋敷、二本松の赤子、白金御殿の一本足、釜なし横丁、化椿、化銀杏、秋月の羽衣



平成 24年(2012年)：かつて洞穴があったと伝えられる狸穴坂下の谷合。写真は、ちょうどそのあたりにある「狸穴公園」。

狸穴という地名はその昔、狸穴坂に雌狸が棲む大きな穴があったため、銅を掘り出した「まぶ穴」(坑道の穴)があったため、など諸説ある。

江戸時代、本所七不思議、番町七不思議などと並んで有名だったといわれる「麻布七不思議」。

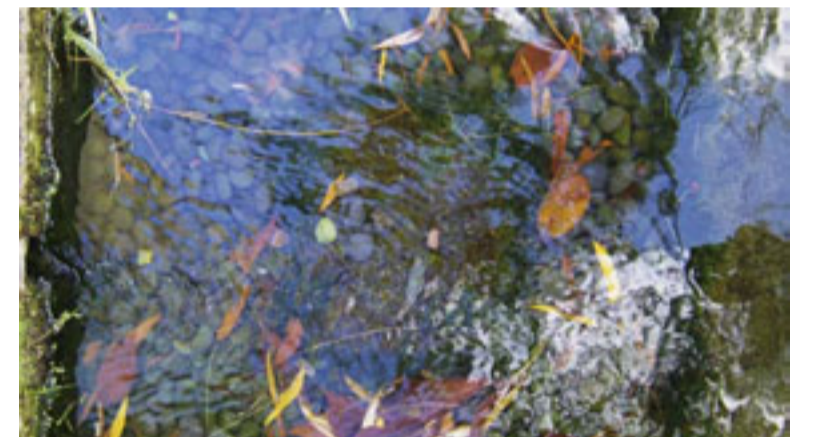
奇談や言い伝えなど、七不思議に数え上げられるものは当代の人びとの興味関心によってばらつきがあり、江戸、明治、大正、昭和とさまざまな七不思議が残されている。

ここでは、江戸時代に人びとから注目された“不思議”のうち、麻布地区総合支所地下1階にあるレリーフ、「麻布の七不思議」で取り上げている場所や事物に焦点をあて、それぞれの今の表情を紹介する。



平成 22年(2010年)：善福寺の参道にある「柳の井戸」。

弘法大師が常陸の鹿島明神に祈願し、手にしていた錫杖を地面に突き立てたところ、清水が湧き出したとの言い伝えがある。



平成 24年(2012年)



平成 23年(2011年)：大黒坂から見た「一本松」。

天慶2年(939年頃)、平将門を打ち倒した源経基がこの地に来て宿をとった。去るとき、冠装束をこの松にかけていったことから、「冠の松」と呼ばれるようになったとの言い伝えがある。

# 「麻布七不思議」—江戸と今(2)



## 平成 23年(2011年)：善福寺の「逆さ銀杏」。

根がせり上がり、枝先が地面に向かって伸びていることからこの名がある。親鸞聖人が地面に刺した杖から繁茂したともいわれ、「杖銀杏」の別名も。



## 平成 24年(2012年)：藪の向こうに垣間見える「がま池」。

江戸時代、この池は旗本・山崎治正の屋敷の敷地内にある大きな池であった。近隣で火事があったとき、池の主である大墓が口から水を吹きかけて類焼を防ぎ、山崎家の屋敷を守ったという伝説がある。池は昭和期に埋め立てられ、現在はマンションの敷地内に一部が残っている。



## 平成 23年(2011年)：「脚氣石」があったとされる場所。

その石に塩をかけて拝むと足(脚)の病が治るというところから、脚氣石と呼ばれるようになったという。



## 平成 22年(2010年)：「広尾の送り囃子」の舞台となった広尾が原は、今の広尾から南麻布周辺にかけての一带といわれる。

その昔、夜中にそのあたりを通ると、どこからともなくお囃子の音が……。はて、こんな夜更けに？ と耳を澄ますと音はすぐ近くで聞こえ、いったいだれが？ と身構えると、今度はどんどん遠ざかっていったとか。狸のいたずらという説も。